



『実りの秋を迎えて』

副校長 永井 信行

朝夕の涼しさに秋の訪れを感じる季節となりました。日中はまだ暑さが残る日もありますが、子どもたちは元気いっぱいに学校生活を送っています。

10月は、「実りの秋」と言われるように、学習や運動、読書など、さまざまな活動にじっくり取り組むのに適した時期です。ちなみに私は食べることが好きなので食欲の秋に偏りがちなのですが、運動の秋も意識して健康に留意していきたいと考えております。

本校は二学期制により、10月9日（金）は前期終業式で、前期の「あゆみ」が渡されます。ぜひ、「あゆみ」の結果だけでなく、できるようになったことやがんばった過程にも目を向け、4月からのお子様の成長をぜひ認め、励ましていただければと思います。そして、ご覧いただきながら、お子様と学校生活や学習について話し合う機会としていただければ幸いです。得意なことはさらに伸ばし、課題については今後の目標として前向きにじっくり取り組めるよう、ご家庭でも温かい声かけをお願いいたします。それが子どもにとってのがんばりのエネルギーとなり、更なる実りにつながっていくと思います。学校でも引き続き支援してまいります。

また、秋は芸術の季節でもあります。11月26日（木）に開催されるドレミファコンサートに向けて、各学年で練習が始まっております。授業中はもちろん休み時間にも、楽器の音がさまざまなクラスから聴こえてきます。子どもたちは、合奏を通して仲間と心を合わせ、一つの音楽をつくり上げる喜びを感じながら活動に取り組んでいます。練習を重ねる中で、演奏技術だけでなく、協力することの大切さや最後までがんばり抜く力も育まれています。私自身、ドレミファコンサートを鑑賞することが初めてなので、とても楽しみにしています。これからまだ約2ヶ月練習する期間がありますので、音を楽しみながら一人ひとり自分の目標に向かって練習を重ねてもらえたらうれしいです。

